

目的 「地域福祉」の概念はきわめて多義に使われてきた。その定義も概念構成も、種々あって目下、本格的な研究の域にあるということが出来る。最近の成果から、地域福祉とは、社会福祉サービスを必要とする個人・家族の自立を地域社会の場において図ることを目的とし、それを可能とする地域社会の統合化・基盤形成とはかざるうえに必要な環境改善サービスと对人的福祉サービス体系の創設・改善・確保・運用およびこれら実現のための組織化活動の総体という、と定義されている『地域福祉組織論』(1981年)。これを大枠としての高齢者生活実態と問題点の摘示をすすめてきたが、本報ではより具体的に高齢者のより幸福を高める手だてとして、先駆ける事例をとりあげる。

方法 福岡県粕屋郡久山町の健康管理行政体制について研究する。

組織の概要、広報、実績に関しては、町役場各担当者による説明を受け、諸資料の解説を受けた。また、高齢の町民の方にもお話をうかがった。

結果 1) 過去20年における継続した活動の結果、町民の健康にとって最も重要な諸点が生きとデータとして明らかにされたことである。

2) 病気の予防対策、予後指導の徹底がはかられ重症化を回避することが出来ること。

3) 費用の面での効率的節約についでいこうとする地域的活動であること。

こうした健康管理方式は、「久山方式」と呼ばれ、その成果は、世界の学会、機関にもとりあげられる。アード・バック・システム(広報ひきやま)の資料図示を中心として発表する。